

国立国語研究所学術情報リポジトリ

「つまり」による換言に及ぼす文脈の影響

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2022-01-07 キーワード (Ja): キーワード (En): Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese (BCCWJ) 作成者: 櫻井, 芽衣子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00003503

「つまり」による換言に及ぼす文脈の影響

櫻井 芽衣子（日本工業大学）

The Context Effect on Paraphrasing by “*Tsumari*”

Meiko Sakurai (Nippon Institute of Technology)

要旨

換言の接続表現「つまり」は、先行部を具体的に説明したり、要点をまとめたり、分かりやすく言い換えたりすることを示す。「つまり」による換言の様相を『現代日本語書き言葉均衡コーパス』で見ると、先行部と後続部の結びつきが百科事典的知識に基づいているため文脈から切り離しても換言が成立するものと、文脈から独立させると換言が成立しているかどうか判断できないものがある。先行部と後続部の結びつき自体に文脈の影響があるといえる。また、文脈より換言の内容に関わる情報を得ることもあれば、換言の観点に関わる情報を得ることもある。異なるレベルで文脈が関与しており、特に、読み手の理解を促す換言のための情報提示という文脈の影響は、文章の一貫性を分析する上で重要な観点となると考えられる。

1. はじめに

「つまり」は換言の接続表現で、「つまり」の先行部を後続部で何らかの形に言い換えて示す。同じ先行部に対して様々な後続部が想定されるが、どのような後続部であっても文章中で効果的な換言となるわけではない。

- (1) 柴犬 つまり 立ち耳・巻き尾を持つ日本原産の小型犬
- (2) 柴犬 つまり 私が並々ならぬ親しみを感じている犬種
- (3) 柴犬 つまり 山田さんのお宅のポチ

(1) は百科事典的知識に基づいたもので文脈がなくとも成り立つが、(2) (3) は、それだけでは読み手に疑問を抱かせることになり、効果的な換言とはいえない。しかし文脈があれば換言として自然で、読み手の理解を深めるものとなる。

- (4) 実家では昔から柴犬を飼っている。柴犬は躰が難しいとされるが、賢く勇敢で、飼い主には非常に忠実である。また、武士のような凛とした佇まいも好ましい。その一方で、時折そっと体を寄せて甘えてくる様子も大変かわいらしい。だから私は、犬を飼うなら柴犬 つまり 私が並々ならぬ親しみを感じている犬種がいいと考えている。

- (5) 近所では犬を飼っている家が多く、顔見知りの犬もたくさんいる。この時間帯にこの辺りを歩くと、柴犬 つまり 山田さんのお宅のポチが散歩しているところに行き会える。ポチはとても人懐っこく、撫でてやると嬉しそうに目を細めて耳を倒すのだ。

先行部「柴犬」と、後続部「私が並々ならぬ親しみを感じている犬種」や「山田さんのお宅のポチ」との間の結びつきが文脈により明確になり、意味のある換言として理解される。

「つまり」による換言が意味のあるもの・効果の高いものであるためには文脈が重要で、文脈は特に換言の適切さに対する影響が大きいと考えられる。本稿では、先行部と後続部との関係を何らかの形で支えることがある文脈に注目し、「つまり」による換言に及ぼす文脈の影響を整理することを試みる。

2. 接続表現「つまり」に関する先行研究

日本語記述文法研究会（2009）で記述される「つまり」など換言の接続表現の先行部と後続部のパターンを以下にまとめて示す。

- (6) a. 表現のレベルで理解の難しい表現を理解の易しい表現にいかえる
- b. 概括的・抽象的内容について、個別的・具体的な説明を加える
- c. 先行部で提示された具体的な内容について、後続部でその要点を提示する
- d. 別の観点からのものの見方を後続部で示す

（日本語記述文法研究会 2009 pp. 93-4）

先行部と後続部の組み合わせは多様である。

「つまり」の機能に関しては、「聞き手に理解しやすくなるように先行部を解釈すると後続部のようになることを示す（日本語記述文法研究会 2009 p. 95）」とする。石黒圭（2001）もまた、「つまり」を「送り手の解釈を加えて、受け手にとって理解しやすいと思われる表現に言い換える接続語（pp. 39-40）」と説明するが、後続部がたとえ難しい表現であったとしても、それが先行文脈で使われていたり社会に流通していたりすれば受け手にとって理解しやすく、「つまり」による換言が成り立つことを指摘する。

「つまり」が類似の接続詞と置き換えられることに注目した伊藤光史（2014）は、「つまり」と類似の接続詞とに共通する捉え方を提案し、「つまり」を「先行部を前提として後続部で判断を下す関係性を結ぶ（p. 139）」接続詞の一つとして捉えている。伊藤（2014）によると、「つまり」の先行部をどのように言い換えるか、という点に関して判断を下しているという。

記述・分析されている「つまり」の働きを踏まえつつ、適切で意味のある換言の成立には何が要因となるのか、「つまり」の先行部・後続部やそれらの関係に加えて、文脈の影響を考察する必要があると考える。

3. 「つまり」による換言に及ぼす文脈の影響

換言の適切さに関わる要因として文脈があるが、その関わり方には様々なレベルがある。先行部と後続部の関係には、(6a)～(6d)のように多様性が見られるが、いずれの関係のものに言い換えるか、いずれのパターンの言い換えをすれば説明として最適か、この判断に文脈の影響はあるだろう。また、(1)と比較してみると、(2)(3)が適切な換言であるためには文脈を必要とすることは既に見た。特定の換言が成り立つためにはどのような情報が提示されていればよいかということもまた、文脈の影響の現れといえる。

ある文脈において、どのような換言パターンが効果的か、という表現レベルの影響はひとまず措き、適切な換言の成立要因となる文脈の影響を探るために、まずは実際の換言における文脈の影響の様相を整理したい。対象としたのは『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（以下、BCCWJ）からコーパス検索アプリケーション『中納言』を用いて収集した用例である。(6b)(6c)にあるように、「具体」「抽象」という概念を捉えやすくするため、対象を名詞(句)から名詞(句)相当への換言を扱う。

3.1 先行部と後続部とを結びつける

先行部と後続部との結びつきに対する文脈の影響は、先行部に対する後続部での説明が百科事典的知識に基づいており文脈がなくとも成り立つものと比較することでより分かりやすくなる。そのため、まずは先行部と後続部との結びつきに文脈が影響していないものを

見る。

(1)のように、文脈から切り離しても受け手が理解できる換言とは知識に基づく換言で、先行部の概念の説明や訳、平易な表現等への置き換え等である。

(7)ところが、そうならなかったのは、最後の将軍である徳川慶喜が主戦論をとらず、むろん小栗の案をしりぞけ、恭順つまりいっさい手向わないという方針をとり、すべてを勝にまかせ、水戸へ去ったからです

BCCWJ サンプル ID: LBi2_00038 司馬遼太郎(著)『明治という国家 上』

(8)すでに述べきたったように、私のいう〈臨床の知〉は、狭く医学的臨床だけに関わるものでもなければ、バイオエシックスつまり生命倫理というトピックが日本で大きくクローズ・アップされるようになってから考えられたものでもない。

BCCWJ サンプル ID: LBg1_00017 中村雄二郎(著)『臨床の知とは』

(7) (8) の換言は (6a) のパターンであると考えられる。先行部の一般的な意味を説明したり、先行部をより身近な表現に言い換えたりするものである。先行部に関する基本的な知識があれば換言でき、また受け手としても理解もできる。「つまり」の前後のみを抜き出しても理解に支障が生じることはない。

(6b) や (6c) のタイプにも、先行部と後続部の結びつきに文脈が影響していないものがある。

(9) アリカにある各社の自動車工場はゆくゆく国営化して、産業用車輪つまりトラック、トラクターの製造にあたらせるらしい。

BCCWJ サンプル ID: PB19_00326 深田祐介(著)『革命商人 上』

(10) 急激な高齢化と在院日数の短縮に伴い、慢性疾患の高齢者は全快しないままに退院となるために、病院が責任ある医療を提供するためには退院後の療養生活を考慮したサービスの提供つまり医療・看護の継続性が必要となった。

BCCWJ サンプル ID: PB24_00046 佐藤清江(著)『継続看護実践ガイド 医療機関と訪問看護をつなぐ看看連携』

(9) は (6b) のパターンで、先行部がテカゴリーを表し、そのメンバーを後続部で挙げている。(9) の場合は、カテゴリー「産業用車輪」におけるメンバーの一部を例示しているといえる。(6c) のパターンである (10) は、先行部の内容の要点を提示している。抽象化して述べているといえる。「医療・看護の継続性」と述べられている継続的な医療・看護の具体的内容が「退院後の療養生活を考慮したサービスの提供」であるということだ。

続いて挙げるのは (6d) のパターンである。

(11) そして自らの現在の境遇は、このような永遠の生命観にもとづいて、過去から現在に至る一切の行動が因となり、現在の果つまり現在の宿命を形成している。

BCCWJ サンプル ID: LBt3_00104 玉野和志(著)『東京のローカル・コミュニティある町の物語一九〇〇-八〇』

専門的な知識を必要とする場合もあるが、「つまり」の前後だけを抜き出しても換言が成立している。(7) ~ (11) は、知識に基づく換言であり、先行部と後続部との関係において、文脈の影響を受けていないといえる。

(2) (3) のように、先行部と後続部との結びつきに文脈が影響を及ぼしていると考えられるものを以下に挙げる。「つまり」の前後だけを取り出すことはできず、「つまり」を含む一文だけを見ても情報が不足する。

(12) は、後続部が先行部の内容を具体的に述べている (6b) のパターンである。

(12) 彼女が個人誌とせずに、岡田八千代を熱心に誘いこんだのは、長年の親しい間柄もさることながら現役第一線の八千代から刺戟をうけたい気持があったにちがいない。加えて、対外的な思惑つまり雑誌を周囲に注目させる上でも、八千代はコンビを組む相手として一番のぞましい、と考えたのではなかろうか。雑誌の刊行前から、時雨が〈的度のお薬味は必要のものと忝けなく思っている〉といなすような皮肉や嫌味な評をあれこれ受けたが、すでに名のある女流二人の同人雑誌が周囲の耳目をひいたのはたしかだった。

BCCWJ サンプル ID: LBn9_00086 岩橋邦枝(著)『評伝長谷川時雨』

この換言の場合は、特に後続文脈の「すでに名のある女流二人の同人雑誌が周囲の耳目をひいた」という記述が、後続部の記述を先行部の説明として成り立たせていると考えられる。

(13) もまた、文脈を理解した上でないと先行部と後続部の結びつきが把握できない。別の観点から言い換える (6d) のパターンである。

(13) たとえば具体的な話ですが、私の女房の、身体が不自由になった母が、風呂に入りたいというのです。そして母は私の女房のお兄さんである、長男夫婦と一緒に住んでいます。だから長男のお嫁さんが「では私がお風呂に入れましょうか」といったら、私の女房つまり実の娘に入れてもらいたいというのです。

BCCWJ サンプル ID: PB23_00377 佐藤慶幸(著)『NPO と市民 アソシエーション論の可能性』

「つまり」の先行部と後続部は、その部分だけを取り出して考えると、百科事典的知識に基づく関係とはいえない。前文脈「私の女房の、体が不自由になった母」という記述があって初めて理解可能になる換言である。

(12) (13) は、先行部と後続部との結びつきに文脈が影響を及ぼしているといえるが、この場合の文脈の影響は、適切な換言の成立要因というより、百科事典的知識外の知識を得ることに関与しているものである。

(12) の先行部と後続部は、百科事典的知識に基づく関係でない。しかし、「八千代はコンビを組む相手として一番のぞましい、と考えたのではなかろうか」という記述により、何らかの「思惑」が働いた上での雑誌刊行であることが分かり、結果的に「周囲の耳目を引いた」とあるので、その「思惑」が「雑誌を周囲に注目させること」であることが推測される。

(13) も、「私の女房」が誰かの「実の娘」であることは百科事典的知識に基づいているが、話題となっているのは『私の女房』の母が、長男の嫁ではない人の介助で入浴を望んでいることである。この文脈により、「私の女房」と「(私の女房の母にとっての) 実の娘」とが結びつくと考えられる。

以上、先行部と後続部との結びつける文脈の影響を見た。文脈から百科事典的知識以外の知識を得ることで先行部と後続部とが結びつき、換言が成立するといえる。

3.2 後続部の選択に関わる情報を提示する

続いて、後続部の選択に関わる文脈の影響の様相を見る。後続部の選択要因としての文脈の影響には、換言内容に関わる情報を提示するものと、換言の観点に関わる情報を提示するものがある。

3.2.1 換言内容に関わる情報

後続部の選択要因としての文脈の影響は、換言内容に関わる情報を提示するという形で

現れることがある。文脈から得た情報により先行部が限定され、その先行部が言い換えられる。

(14) 価格破壊を実現させたのは、為替レートつまり円高であった。

BCCWJ サンプル ID: LB13_00063 黒川和美(著)『民優論 真に国民に優しいシステムとは何か?』

(14) は (6b) のパターンである。先行部「為替レート」は、厳密には「為替レートの変動の様相」だと考えられるが、そのカテゴリー自体のメンバーには「円安」も想定される。しかしこの一文において後続部で「円高」が選択されているのは、「価格破壊を実現させた」という記述があるからである。価格破壊の実現という記述により日本国内の物価が下がったことが示され、それを引き起こす「為替レート (の変動の様相)」としてふさわしいのは「円高」である。文脈から得た情報によって先行部が特定され、それによって後続部が決まっているといえる。

この形の影響の及ぼし方は、先行部と後続部の結びつきが百科事典的知識に基づくか否かに関わらない。

(15) 日本が敗戦降伏となると、川島芳子はすぐに国民政府の手で漢奸として逮捕された。漢奸とは、中国人でありながら敵つまり日本に通じる者、裏切者、売国奴をあらわす言葉だ。

BCCWJ サンプル ID: LBq9_00075 松村友視(著)『男装の麗人』

先行部と後続部とが文脈の情報によって結びついている (15) もまた、前文脈を正しく理解したことで得た知識、あるいは呼び起こされた知識に基づく換言である。文脈から切り離された「敵」を「日本」と言い換えることは困難だが、文脈から理解される「(日本が敗れた戦争があった頃の中国にとっての) 敵 (であり、川島芳子が関係している国)」として、「日本」は百科事典的知識に基づき想定される。先行部「敵」が文脈の影響により特定され、換言が成り立っている。

なお、既に見た (12) は、文脈が先行部と後続部とを結びつけるだけでなく、換言に関わる情報も提示しているといえる。

換言内容に関わる情報提示という影響の中でも特殊であると考えられるのが (16) である。(6a) のパターンの換言である。

(16) 購入とは売買契約によって何かを買い受けることで、それ自体は改めていうほどのことではありません。とはいえ、不動産は大きな買物ですから、電気器具を購入するのと違い、売買契約についての大きい注意と知識が必要です。契約の締結、さらにその履行の問題があり、登記や引渡しについても油断はできません。不動産の購入が首尾よく立派にできれば大したもの。そこで獲得する知識は、今後社会的に活躍するにあたって大いに役に立ちます。本書で述べる知識はぜひ身につけていただきたいものです。土地や建物、そして購入つまり売買契約については別項で述べます。

BCCWJ サンプル ID: PB13_00612 石原豊昭(著)『不動産購入マニュアル マイホームを買う完全解説版』

先行部「購入」を後続部「売買契約」へと換言している。先行部の方が一般に馴染みがあると考えられるが、前文脈で「購入とは売買契約によって何かを買い受ける」と売買契約という表現が用いられている。文脈に出てきていればたとえ難しい表現であっても言い換えられることは、石黒 (2001) において指摘されている。さらに、後文脈で売買契約について述

べるという記述も見られ、「売買契約」という専門性の高い表現に慣れてもらうという狙いがあった可能性も考えられる。このように考えるのであれば、文章全体や文章の構成が後続部の選択に影響を及ぼしているともいえる。

(12) (14) (15) が (6b) のパターンの換言であることを考えると、(6a) のパターンである (16) における文脈の影響は、異なる説明を必要とするものである可能性が高い。

3.2.2 換言の観点に関わる影響

続いて見るのは、先行部のどのような観点に注目して言い換えるか、その指標となり得る情報を文脈が提示しているものである。次の (17) は (6c) のパターンである。

(17) 第三段階となるのは、「共通市場」という考え方です。日本では市場統合ということもありますが、これはその域内の貿易つまり物の移動の自由だけではなく、完全に人やお金の移動もすべて自由にする事です。

BCCWJ サンプル ID: 0B5X_00242 竹中平蔵(著)『竹中教授のみんなの経済学』

(17) は EU に関する記述である。「貿易」を経済活動の一つであることに注目して換言するのではなく、「貿易」という活動の細かな要素を削ぎ落して大枠で捉え、「貿易」を「物の移動」というカテゴリーのメンバーの一つとして認識しているといえる。「物の移動」は、後文脈の「人やお金の移動」と同じカテゴリーに含まれるメンバーとして想定されるものである。貿易とは他国との商品の取引である、という単純な百科事典的知識だけでなく、後続文脈の影響を受け、他の概念と関連付けられた換言となっている。

(18) 裕次郎が登場する前に(おそらく後も)タラップがあればほど似合う(であろう)男は、ぼくの知るかぎり日本人では一人もいない。ただ、外国人に一人だけいた。マッカーサーである。レイバンのサングラスをして、愛用のコーンパイプを手に、終戦の年の8月三十日に彼は、愛機五十四バターン号から丸腰のままタラップを悠然と降り、厚木基地つまり日本の地を踏んでいる。

BCCWJ サンプル ID: LBk9_00265 山本淳生(著)『俺の裕次郎 60年代が眩しいぜ』

(18) もまた (17) と同じく先行部と後続部がメンバーとカテゴリーの関係にあるもので、先行部「厚木基地」は後続部「日本の地」のメンバーである。「厚木基地」が日本の国土の一部であることは明白だが、ここで「日本の地」と述べるのは、前文脈「マッカーサー」という記述の影響であろう。文脈より、マッカーサーが連合軍の最高司令官であり、戦後の日本に影響力があつた、という知識が呼び起こされ、「日本の地」という換言が自然で意味のあるものとして成り立っていると考えられる。直接関わるのは知識だが、その知識を喚起し換言の観点に関わる情報を提示するのは文脈である。

なお、先に挙げた (13) もまた、換言の観点を文脈より得ていると見ることができる。

4. まとめと今後の課題

以上、様々なパターンの換言に及ぼす文脈の影響を見た。換言に対する文脈の関わり方は一通りでない。ただ、現段階では多様な影響の及ぼし方を指摘したに過ぎず、換言のパターンとの関連、また指摘した影響以外の可能性についても十分考察することはできていない。

難しい語・概念の説明をしたり具体的に言い換えたりすることが文章の読み手に理解を促すことは容易に想像できる。その一方で、より具体性の高い先行部を後続部で抽象化して述べる (6c) のようなパターンもある。このパターンの換言により、なぜ読み手の理解が進むのか、という点は興味深い。抽象的に換言される文脈に、特定の性質があるのだろうか。

(6c) のパターンには、(10)「退院後の療養生活を考慮したサービスの提供つまり医療・看護の継続性」のように、後続部で焦点を当てるべき要素が文脈の影響をそれ程受けること無く先行部から直接抽出できるものと、(17)「貿易つまり物の移動」や(18)「厚木基地つまり日本の地」のように抽出すべき要素が文脈の影響を強く受けているものがある。(17)(18)のような換言は文脈が無ければ却って読み手の理解を妨げるおそれがあるが、文脈があることにより自然な換言として成り立ち、前・後文脈との意味的な連続性を捉えた文章理解を可能にする。抽象化という情報の認知の仕方が、文章全体をまとまりのあるものとして理解するために必要な技術の一つであると捉えられると考える。

石黒(2011)では、文章をまとまりのあるものとして把握するメカニズムの解明には、形態的指標だけでなく内容も考慮する必要があるとし、比較的前の内容を意識することが文章の構造の把握につながるということが明らかにされている。(6c)のように抽象化する換言には文脈が関わっているものもある。形態的な指標を伴わないものの、文の連続性を保証し文章全体をまとまりのあるものとして理解可能にする一貫性について、「つまり」による抽象化に関する考察が貢献できることがあるのではないだろうか。結論部分における抽象化であれば、文章全体を通していずれの点に焦点を当ててきたかが分かる。結論部分でなくとも、限られた範囲内でどのような表現が用いられているか、そしてそれらの表現により、何に焦点を当てて抽象化することになったか、ということが分析できるので、内容に焦点を当てた考察が可能となる。

文章の結論部分で、「つまり」に続けて抽象化した内容がまとめとして述べられることがある。抽象化は読み手の理解を促し、文章全体をまとまりのあるものとして捉えやすくする。しかし「つまり」の使用の有無に関わらず、抽象化するためには、知識や知識を得るための文脈理解も必要である。また知識も、個別の情報として蓄えられているだけでは不十分で、体系的に理解されていなければ、いずれの要素を抽出するか・抽出できるか判断を下すことができず、効果的な抽象化は難しい。

要点をまとめるための観点・先行部を換言する際に抽出すべき観点は、文脈のどのような要素によって求められているのだろうか。細かな分析となることが予想されるが、「まとめ」という文章作成の指導の在り方や効果的な指導方法を考える上で欠くことはできない。またこの考察を通じて、文章をまとまりのあるものとして把握するメカニズムにアプローチすることもできる。求められている換言のパターンにも文脈が影響を及ぼしている可能性もあり、今後考察すべき課題である。

参考文献

- 石黒圭(2001)「換言を表す接続語について——『すなわち』『つまり』『要するに』を中心に——」『日本語教育 110号』pp.32-41
- (2011)「文章理解における一貫性の把握について」『一橋大学国際教育センター紀要 2』pp.3-11
- 伊藤光史(2014)「接続詞分類の上位概念——『したがって』『つまり』『このように』を通して——」『日本語・日本文化研究 24』pp.136-47
- 日本語記述文法研究会(2009)『現代日本語文法 7』くろしお出版

関連 URL

コーパス検索アプリケーション『中納言』<https://chunagon.ninjal.ac.jp/>